

企業誘致や雇用創出の対策は

市内の情報共有や 連携を強める



畑山 親弘
(市政・社民クラブ)

議員 合併してから十
年間で人口が四千五百人
余り減少したが、人口減
の要因は。

企画財政部長 出生及び
死亡による自然動態につ
いては、出生数の減少及
び高齢人口の増加による
死亡数の増加などが要因
と考えられます。一方、
転入、転出による人口の

動きである社会動態につ
いては、市外への転出者
数が転入者数を上回る状
況が続いています。その
要因としては、進学、就職、
または転勤などが考えら
れますが、進学のため転
出した子供たちがそのま
ま市外へ就職する、また
は十和田市に戻りたいが
就職先がないなど、雇用
に係る要因が大きいと考
えています。

議員 平成十九年に市
総合計画を策定した際の
アンケートでは、今後の
重点プロジェクトとして
雇用の創出への期待度
が高かった。市民との意見
交換会、畜産関係の企業
誘致、そして観光面での
誘致等で雇用創出につな
げられるようにプロジェ
クトチームの発足など具
体策を検討する考えは。

市長 市内外から多く
の方に来てもらいたい、
そして逆に市内から人口
を流出させないためにさ
まざまな取り組みを強め
ていかなければと思っ
ています。そのために、具
体策を検討する場を設け

るなど、市内の情報共有
連携を強めていきたいと
考えています。

議員 農村部の少子高
齢化が著しく、学校統合
も進みつつあるが、一定
数を確保しつつ、小規模
校の特徴、よさを生かす
考えや、市街地から児童
生徒をスクールバスで通
学させる考えはないか。

教育部長 一定の地域に
学校が存在することは大
事だと認識していますが、
学校の機能として、児童
生徒の社会性、協調性、
連帯感などを育むなど、
集団での学びを確保する
必要があることから、あ
る程度の規模が必要であ
ると考えています。



人口減少に備えた対策が求められる

第1回「市議会・市民との意見交換会」における、質疑、意見、要望についての回答

「市議会・市民との意見交換会」は昨年5月28日に中央公民館初め4会場で開催しました。その際に参加者の皆様からさまざまな質疑等をちょうだいしました。それらについて担当する常任委員会での調査が終了しましたので、主なものを要約し掲載いたします。

※なお、詳しくは十和田市議会ホームページに掲載しています。

十和田市議会 検索

総務文教常任委員会

Q：選挙について、期日前投票もできるので、投票日当日の投票時間は午後6時まででいいのでは？

A：投票時間の繰り上げが全国各地に広がっていますが、公職選挙法により投票時間の繰り上げができるのは、特別の事情があるときとなっています。当市でも、十和田湖畔地区の2投票所の閉じる時刻を繰り上げしていますが、その他の投票所では、特別の事情がないことから、繰り上げることはできません。また、全国各地の繰り上げの事例は、公職選挙法の拡大解釈になる恐れもあるとのこと。

Q：東公民館のグラウンドゴルフ用地を広げてほしい！

A：市の説明では、グラウンドゴルフ場の拡充や整備は、費用などを考えるとこれ以上は難しいとのことでした。また、現地調査を行い、のり面が崩れた現場の確認や利用者の声を聞きました。その結果、今後も改善についての検討が必要であると意見が集約され、継続して調査や検討することとし、改善に努めるよう市に働きかけていくこととしました。